

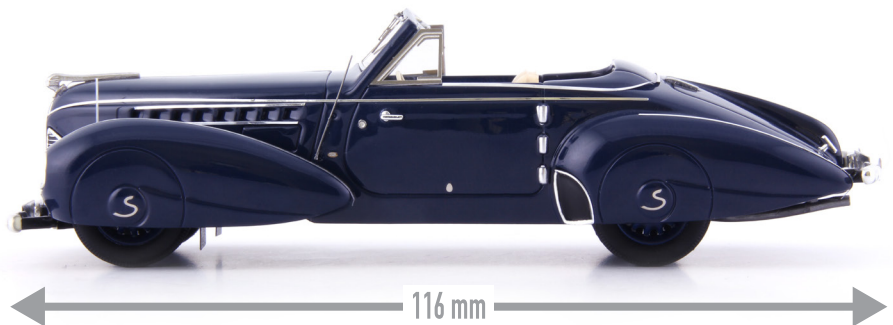
scale 1/43

# #02022

available

# 04/2020

limited edition 333 Stck.



## ファンシーな外装 - 信頼の内部

1920年代の終わりとともに、自動車の生産は有益なビジネスであることが明らかになり、エアロの経営陣はこのビジネス分野に参入することを決定しました。1919年にプラハで設立された当初、同社は飛行機の生産を生業としていました。1931年、AeroはAero 10という小型車で自動車市場に参入しました。その後すぐにAero 16が続き、1934年に同社は最初の前輪駆動車であるAero 30を発表しました。

車種のなかでも特筆すべきは、1936年に最初に発表されたAero 50でした。当時は、2リットルの水冷4サイクルエンジンを搭載し、50馬力の性能を備えていました。振動軸を備えたシャシーは完璧に最新かつ未来志向でした。富裕層の顧客の好みに合わせ、Aero 50モデルには魅力的なボディデザインが施されました。顧客はロードスターバージョンとセダンバージョンのどちらかを選択できました。Aero 50は1941年まで製造。総生産数1,205台という数字は経営陣を笑顔にさせるものでした。もちろん、標準的な車体に満足せず、専門

の車体メーカーにカスタマイズを委託したバイヤーもいました。これらの顧客のうち5人は、「Carrosserie Sodomka」という会社の申し出を受けて、1939年から大量生産のモデルとは一線を画す、カスタマイズされた流線型のボディを構築しました。

ヴィーソケー・ミート(チェコ共和国)を本拠地とする同社は、一流のボディメーカーへと進化しました。そのため、カスタマイズされた車は、型名に会社名が付けられていました。ソドムカは早い段階で空力の原理を車体に適合させましたが、Aero 50 Dynamikのように決して独特ではありませんでした。

**AutoCult GmbH**  
Äußere Further Straße 3  
90530 Wendelstein  
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280  
ファックス +49 / 9129 / 296 4281  
info@autocult.de

[www.autocult-models.de](http://www.autocult-models.de)